

オミクロン株対応2価ワクチン(ファイザー社5~11歳用)を受けた お子様と保護者の方へ

〈 新型コロナワクチンを受けた後の注意点 〉

ワクチンを受けた後は



15分以上は接種会場で 座って様子をみてください。*

※過去にアナフィラキシーを含む、重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、採血等で気分が悪くなったり失神等を起こしたことがある方は、30分ほどお待ちください。



医療機関の中では、お待ちの間も感染対策をお願いします。

接種日当日

●接種後、すぐに現れる可能性のある症状について

アナフィラキシー	<ul style="list-style-type: none"> ・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。 ・じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに反応しない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。 ・起こることは極めてまれですが、接種後にもアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能なよう、ワクチンの接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。
血管迷走神経反射	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。 ・誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。 ・倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子をみてください。

ワクチンを受けた日の
注意点

- 通常の生活は問題ありませんが、激しい運動は控えてください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。また、接種当日の入浴は問題ありませんが、体調が悪い時は無理をせず、様子を見るようにしましょう。なお、注射した部分は強くこすらないようにしましょう。



数日

●接種後、数日以内に現れる可能性のある症状について

発現割合	症状
50%以上	疼痛
10~50%	疲労、頭痛、筋肉痛
1~10%	悪寒、関節痛、発赤、腫脹、発熱、下痢、嘔吐

出典：特例承認に係る報告書より改編

- ・接種直後よりも翌日に痛みを感じている方が多いです。
- ・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。



◎新型コロナワクチンに関する相談先

ワクチン接種後に、 体に異常があるとき	→ ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医、 市町村や都道府県の窓口
ワクチン接種全般に関する お問い合わせ	→ 市町村の窓口



◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます（※）。

申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

（※）その健康被害が、接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、市町村により給付が行われます。認定にあたっては、予防接種・感染症・医療・法律の専門家により構成される国の疾病・障害認定審査会により、因果関係を判断する審査が行われます。

◎ワクチンを受けた後も、感染予防対策の継続をお願いします。

新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症を予防する効果が確認されていますが、その効果は100%ではありません。また、ウイルスの変異による影響もあります。

このため、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体的には、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行、こまめな換気などをお願いします。



ワクチンを受けた人もいれば、受けていない人もいます。ワクチンを受けた後も、今までのように、しっかり手洗い、消毒などの感染予防対策を続けましょう。



マスクの着用（※）



石けんを手洗い



手指の消毒



こまめな換気

（※）令和5年3月13日以降、マスクの着用は個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねることになりました。

マスクの着用が効果的な場面はこちら→



新型コロナワクチンの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン 子ども 検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

